

今月の言葉：

共に生きていくために



チューリップ
思いやり

親鸞の教えを伝える『歎異抄（たんにしょう）』に「有縁を度す（うえんをどす）」という一節があります。これは、まず身の回りの縁のある人を助けることの大切さを説いた言葉です。社会は多くの人々が関わり合うことで成り立っています。その一人ひとりが身近な人に心を向けて、今の自分にできることをする。それは良い社会を築く第一歩ではないでしょうか。日々、関わりを持った相手に対する「ちょっとした思いやり」を発揮して、できることから一歩ずつ、自分の力を人や社会のために役立てていきたいものです。

事件ファイル No. 215

自転車の交通違反(青切符の導入)

<p>携帯電話使用等(保持) 12,000 円</p>	<p>遮断踏切立入り 7,000 円</p>	<p>自転車制動装置不良 ブレーキなし 5,000 円</p>	<p>無灯火 5,000 円</p>	<p>軽車両乗車積載制限違反 (二人乗り等) 3,000 円</p>	<p>並進禁止違反 3,000 円</p>
<p>信号無視(赤色等) 6,000 円</p>	<p>指定場所一時不停止等 5,000 円</p>	<p>横断歩行者等妨害等 6,000 円</p>	<p>傘差し運転 5,000 円</p>		<p>イヤホン等の使用運転^{※2} 5,000 円</p>
			<p>公安委員会遵守事項違反 安全運転義務違反 手を放した運転等^{※3} 6,000 円</p>		

2026 年 4 月 1 日より、16 歳以上に自転車の違反に青切符が導入されます。

反則金を納めれば刑事手続きに移行せず、事件が終息される（前科がつかない）という制度。一方、飲酒運転や運転妨害等は、これまでと同様に赤切符（刑事手続きに移行）が適用されます。

交通事故総件数が減少傾向にある中、自転車関連事故は横ばいで推移しており、全交通事故に占める自転車関連事故の構成比や自転車対歩行者の事故の発生件数は増加傾向にあります。

また、自転車乗用中の死亡・重傷事故のうち、約 4 分の 3 には自転車側にも法令違反があります。

このように、自転車を取り巻く交通情勢が厳しい状況にある中、警察では自転車による交通違反の指導取締りを強化しています。自転車の交通違反の検挙件数は近年増加しており、青切符の導入は、これを簡易迅速に処理し、違反者と警察の時間的・手続き的な負担を軽減することにより、実効性のある違反処理を行う制度です。



今月の良い話

独立のすすめ



1835年、福澤諭吉は豊前中津藩（大分県）の下級武士で、大阪の中津藩蔵屋敷に勤める父のもと、子供5人の末っ子に生まれました。しかし数え3歳の時、父が病死し母や兄姉と中津に帰郷。漢籍を学び始め、すぐに頭角を現します。ここで面白い話があります。彼は言い伝えや占い、まじないの類を一切信じていない人でした。

皆がありがたがる神社のお札を踏みつけたら本当に罰が当たるのか？と考え、人目を忍んで踏んでみる。

「ウム何ともない、コリヤ面白い」と、最後は便所紙にってしまった。神様や仏様を怖いともありがたいとも思わない。だから何物にも簡単に騙されない。徹底して合理的に科学的に考える、それは持つて生まれた気質でした。自らを称して言った次の台詞が私は大好きです。

「子供ながらも精神は誠にカラリとしたものでした」同書は口述筆記ながら、本人が手を入れています。あえてカタカナにしてあることに、“湿度”の低い人格が窺えます。

中津藩は門閥制度色濃く残っており、同じ武士の間でも上士と下士の区別がはっきりありました。将来を憂えた父は生前、10歳にもなれば諭吉を出家させようと言っていたそうです。後年それを知った諭吉は、父の心中を察して独り泣き、「門閥制度は親の敵で御座る」とまで言い切っています。一方、不満を吐いて終わらないのが諭吉です。因習の中で文句を言うくらいなら外に出ればよい。数え21歳で中津を飛び出し、長崎へ遊学。蘭学と出逢うのです。

この勇気を生んだのは、権威を恐れず、自分自身を重んじ、独立させようとする気概でした。

兄の病死を経て家督を継いだ諭吉は、数え24歳で塾頭に。

翌1858年藩命により江戸勤めとなり、中津藩中屋敷で蘭学塾を開きます。

これがあの慶應義塾になっていくのです。蘭学塾を開いた年、日米修好通商条約が結ばれ、翌年横浜見物に行った諭吉は大きなショックを受けます。

外国人が話す言葉、看板に書かれた文字、即ち英語が全く理解できなかったからです。必死に学んだオランダ語が全く通用せず、さすがの彼も落胆します。

けれども翌日に「新たに志を発して」猛烈に英語の勉強を開始。

見事にものにしてしまいます。

二度の渡米の後、現地での行動について濡れ衣を着せられ、幕府から謹慎を命じられた時も、諭吉は動じませんでした。

熱い心、激する心は深く腹の底に収めておくことが、処世、立国の極意であること。当時は国を熱く思う志士の間で、平気で暗殺が行われる時代でした。

それを諭吉は否定したわけです。

この姿勢が、目覚ましい活躍をしながら最後まで暗殺を免れ、感化を受けた後進たちが、諭吉という水源から流れ出す川のように社会を潤していった要因でしょう。

『学問のすすめ』は『独立のすすめ』だと感じています。

なぜ人は学ぶのか。それは、自分の頭で考え、自分の足で立つ、独立して生きるためなのです。



今月の良い話

みてござる

私は大谷学園という仏教の学校を出ております。当時、左藤義詮(ぎせん)という校長先生がおられて、私が大谷にいる間、繰り返し繰り返しおっしゃっていたのが「みてござる」という言葉でした。左藤先生は立派なお寺の住職さんで、後に大阪の知事になられた方ですけれども、ある時大阪・船場の問屋さんにお説教に行かれるんですね。

その問屋の玄関に立った時、大きな扁額があり、平仮名で「みてござる」と書いてあったらしいのです。上へ上がられたら応接間にも「みてござる」、お手洗いにも「みてござる」、仏間にも「みてござる」の額が飾ってある。

それで左藤先生がご主人に

「珍しいですね。扁額はよう読まない難しい字が書かれてあるものなのに」とお尋ねになったら、ご主人は次のような話を始められたのだそうです。

その方のお父さんは飛騨高山のご出身なのですが、小さい時に父親を亡くされて貧乏のどん底ですね。お母さんが「どうしてもおまえを養えないから」とおっしゃって、13歳で大阪に奉公に行かれるのです。

いよいよ明日は見知らぬ大阪に出発という日の晩、二人ともなかなか眠れない。

お母さんが「じゃあ、お話ししようか」と夜が白むまで子どもにお話をされました。

「貧乏でおまえに何もしてあげられなかった。

何か饞別をしたいんだけど、それもできない。

物を買うお金もないので、火にも焼けないし

水にも流れない言葉をあなたに贈ります」

そう言うとお母さんが平仮名で書いて、少年に手渡されたのが「みてござる」という言葉だったんです。

少年はその言葉を持って大阪に出るので、やはり辛い船場でのご奉公があって、ある時淀川の堤防を歩きながら

「辛いなあ、お母さん恋しいなあ。この川にはまれば楽になれるのに」と思っていたら、ふと「みてござる」という言葉が頭に浮かんで少年を引き戻すんですね。

それから、先輩からいじめられたり、いろいろ辛い体験をされるのですが、そういう時のお守りが常に「みてござる」だったといいます。

この方はやがて船場で店を張るまでに成功し、75歳でお亡くなりになります。

臨終の場に息子たちや番頭さんを集めて

「いろいろお世話になりました。私はおかげさまで成功できたと思うけれども、それには、やはり目に見えない私を引っ張ってくれるものがあつた。それが『みてござる』という言葉なんや。どうか子々孫々に伝えて長くわが家の家宝としてほしい」と言われたというんです。

私は左藤先生に7年ほどお世話になりましたけれども、法話の時間に「みてござる」という言葉を、先ほどのお話以外にも聞かされたのでした。だからこそ皮膚の中から入ったのかなと思います。

左藤先生にしてみたら「言わずにおれない」というお気持ちだったのでしょう。

本当の教育者でした。

見てござる

仏様やお天道様がいつでも見ていらっしゃるという意味

悪いこと・ずるいことはできない（止悪）

良い行いは見られている（励行）

プロ太の小話集

No. 215

55人の医師たち

その55人の医師達は、学会の後の懇親会では大いに盛り上がりすぎてしまい、しこたま飲んでしまった。そしてホテルに到着した医師たちだったが、そのホテル、電気系統の事故によりエレベーターが故障していたのである。「仕方ない、階段で上りますか」「しかし、我々の部屋は55階ですぞ」

「上るだけではつまりませんな。余興で、一階上がる毎に今までで一番つらかったことや、嫌だったことを話すというのはどうでしょうか」

酔っぱらった医師達は大喜びで賛成した。

一階上るごとに医師達は次々と、手術の失敗談や脱税がバレた話、看護婦を襲おうとして逆にぼこぼこにされた話などを報告しては、歓声をあげたのであった。

——そして、55階へ。

「あれれ？」最後の55人目の医師が言った。「ここ、我々のホテルじゃないですぞ」



自転車と歩行者が衝突する交通事故が昨年1年間に全国で3,269件（前年比226件増）あり、2006年以降で最多だったことが警察庁のまとめでわかりました。歩道や横断歩道での事故が5割超でした。歩行者の事故の内訳は、死亡・重傷事故が356件（同5件増）、軽傷事故が2,913件（同221件増）でした。この状況を鑑みると、青切符導入は必然であったものと納得できます。

さて、昨年5月から始めた和太鼓。今月15日に北千住の天空劇場にて行われた発表会でお披露目をさせていただきました。100人くらいの観客でしたが、特に緊張することもなく、若干間違えましたが、精一杯太鼓を叩いてきました。和の文化に触れ、実践し継承していく。来年はさらにステップアップした姿をお見せできるよう練習に励んで参ります。

団体
企業
応援

TOHO
HOLDINGS



Wadaiko Kikyou official Website

和太鼓 禧響

加盟団体

RID2770 川口モーニングロータリークラブ

NPO法人 さいたま起業家協議会

公益社団法人 千葉東法人会

公益財団法人 モラロジー道德教育財団

<https://kawaguchi-morning.jp/>

<https://saitama-kk.org/>

<https://www.chibahojin.jp/>

<https://www.moralogy.jp>

事業所

商号 株式会社ケイプロ

屋号 都市防犯プランニング社

本社 埼玉県蕨市中央1-7-1シティタワー蕨

千葉支店 千葉県千葉市中央区新町1-20江澤ビル

<https://k-puro.co.jp/>

mail info@k-puro.co.jp

TEL 048-446-9445

TEL 043-243-6110

業務内容

機械警備事業 弊社のセキュリティプランにセコム・ALSOKの大手警備会社のインフラを使用

防犯カメラ事業 周辺環境・建物構造・人的要因等を加味し用途に沿ったカメラ選別と適位置へ設置

損害保険事業 セコム損害保険の代理店としてお客様に最適なプランをご提案